

平成20年度 決算審査報告

9月 定例会

平成21年9月1日より25日までの25日間、平成20年度歳入歳出決算認定をはじめとする町長提案27議案と、議員提案2議案、その他意見書3件について審議した。

認定 一般会計

歳入102億474万3151円、歳出98億554万2592円の認定について審議した。

賛成

「住んでよかったといえる町」とするために、絶えず町民の声に耳を傾け地域の真の課題やニーズは何であるかをよく考え、厳しい財政状況の中で町独自の施策を展開するなど魅力あるまちづくりへの想いの詰まった決算内容であると評価する。

(山田達郎 議員)

自主財源の差が行政サービスとの差を生む現在、自主財源の乏しい本町では、身の丈にあった運営と、独自施策により魅力ある町づく

反対

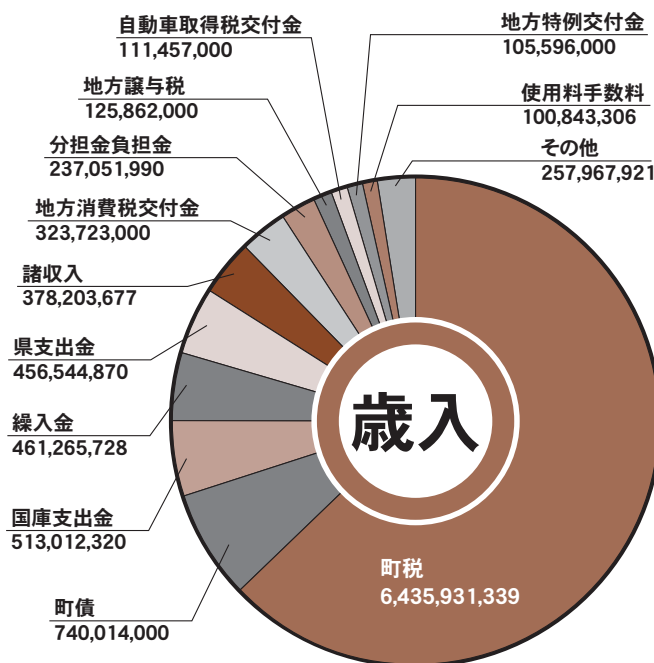
りが必要。平成20年度決算では、最大限の行政サービス提供のため、随所に最小の経費で最大の効果を追求している事が認められる。

(井俣憲治 議員)

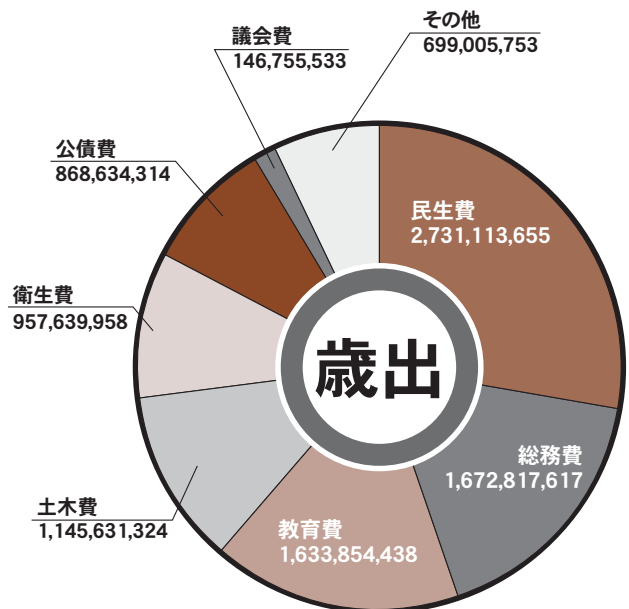
高い国保税の減免制度、低所得者も使える介護に関する負担軽減策がない。また子ども医療費の県補助が増えた時も町負担を減らしただけ。他に、私学助成に所得制限が導入され、商工業振興資金信用保証料の補助率も引下げられた。

(中川雅夫 議員)

町長は財政の導入状況を問われると、議会でも他にも「厳しい」と言う。町の努力を問われると、「大規模開発があるが10年はかかる」



平成20年度 歳入合計 102億4747万3151円



平成20年度 歳出合計 98億5545万2592円